



## 年次晩餐会 千葉支部から28名参加



平成19年度の日本山岳会恒例の年次晩餐会が12月1日午後6時から東京・品川グランドプリンスホテル新高輪の国際館パミール3階「北辰」にて開催されました。それに先立ち15時より隣接の「慶雲の間」において、支部委員会、同好会、同期会各々が、企画した多彩な催事の展示販売が行われました。わが千葉支部は会場入口近くの右側のテーブル席を与えられ、篠崎支部長以下、後藤画伯委員、結城委員、津田委員、豊倉委員、小沢委員、諏訪等が午後2時に集合して、支部長の指揮の下、大張り切りで、千葉支部会員後記6名の著作の展示および販売を実施しました。来場した多くの会員が千葉支部出展の著作集を興味深く眺められ、また出展展示物を求める

方も増え、お蔭様で好評の内に終了しました。引き続き午後6時から、年次晩餐会が全国460名の会員が出席のもと、宮下秀樹会長の開会の挨拶により始まりました。

皇太子殿下は残念ながら公務そして「愛子さま誕生日」とが重なり参列されませんでした。が、殿下の日本山岳会への想いのこもった伝言が会長より紹介されました。また、北海道での遭難事故に弔意を表し、その事故で亡くなられた4名の会員を含め昨年の晩餐会以降に逝去された物故会員46名の方に対して、黙祷を捧げました。

続いて、今年推薦された3名の新名誉会員ならびに36名の永年会員が紹介されました。千葉支部からは、前日本山岳会長の平山善

吉顧問が名誉会員に、また永年会員に前日本山岳副会長の芳賀芳郎顧問が選任されました。両氏は半世紀の50年という長きに亘り日本山岳会に多大の貢献をされ、特に、一昨年日本山岳会100周年記念事業において、平山氏は会長職として、また芳賀氏は募金担当委員長職として大変なご苦勞を重ね記念事業の大成功に実を結び今日の榮譽を迎えられたことは、さぞや感慨深いものがあるかと感じた次第です。

第9回秩父宮記念山岳賞は、松本徃夫会員のチベット高原やシルクロードの踏査研究と「カンリガルポ山群の踏査と研究」の出版に対して同賞が与えられました。今年の新入会員は99名と昨年に小生が入会した時の121名に比べて少なく残念に思いましたが、新入会員を代表して故・深田久弥元副会長の長男にあたる深田森太郎氏が父親の思い出を語りながら挨拶され、多くの参加者の興味を惹いていました。改めて、今日の100名山ブームの凄さと、その人気による中高年登山者の日本山岳会への入会のうねりが終には本家のご長男を動かしたものと勝手に想像してしまいました。

恒例の各支部の支部長および支部会員の紹介では、わが千葉支部の参加者は実に篠崎支部長他27名と一番多くの出席者を誇り、首都圏に一番近いという地の利はあるにせよ、千葉支部会員の日本山岳会活動への熱心な取組姿勢を全国の参加支部長ならびに会員に対して示すことが出来たものと思いました。

各席のテーブルマスター主導のもと、全国から馳せ参じた多くの会員の皆さんも少しくアルコールの快い酔酩を借りて、同好の趣味を持つ親近感で見知らぬ人ともすぐ打ち解け、美味なフランス料理の趣向による楽しい会食に時間のたつのを忘れて大いに語り合いました。

当日展示の千葉支部会員著書は以下のとおり。

- ① 小疇 尚氏  
(明治大学名誉教授、専門 自然地理学、地形学)  
『山を読む(自然景観の読み方)』  
(岩波書店、2007年)  
『山に学ぶ一歩いて観て考える山の自然一』  
(古今書院、2005年)
- ② 平山 善吉氏  
(前日本山岳会会長・千葉支部顧問、日本大学名誉教授、専門 建築構造力学)  
『エベレスト遥かなり』  
(悠々社、1998年)  
『南極・越冬記』(連合出版、2001年)
- ③ 芳賀 孝郎氏  
(前日本山岳会副会長、千葉支部顧問)  
『この山に呼ばれて』(カナダ山岳会)
- ④ 増田 欣子氏  
(画家、日本山岳画協会会員)  
『山はアトリエ<穂高・涸沢>』(山と溪谷社)  
『画暦の山々<穂高からヒマラヤへ>』  
(恒文社、1999年)
- ⑤ 後藤三男氏  
(画家、日本山岳画協会会員)  
『安曇野紀行 後藤三男画集』  
(信濃書籍出版センター、2001年)  
「絵はがきセット」
- ⑥ 川島 由夫氏  
(大学非常勤講師、英米文学専攻、ブラームス協会会員)  
『心に山ありて』  
(日本図書館協会選定図書、新生出版)

(諏訪吉春)

## これからの日本山岳会について

JAC 本部では、山岳会の活性化策を様々な角度から種々検討しておりますが、地方の各支部の活動は活況を呈していることに注目しております。首都圏に在住する会員は山岳会々員の凡そ5割(約2,440人)を占め、それらの会員の大半は本部所属であり、大変大きな所帯となっているわけです。2,400人も数の数になると、大勢が故に、会員間の横のつながりを構築することは一般的には難しくなり、本来あるべき姿の、会員間で楽しむクラブライフですら、ほんの一握りの人達に限られているのではないのでしょうか。何事でもそうですが、組織が大きくなると、個々人の会話や連携活動は不活発となり、自ずと砂漠化してゆくのは一般的な現象だと思います。

このような活性化課題を抱えた日本山岳会がその対策を模索する最中に、千葉支部は誕生したわけで、まさに当を得た適時の設立であったこととなります。支部組織の基盤造りはまだまだその途上にありますが、

里山歩きや、各種懇親会行事を通じて、支部会員個々人のつながりが活発化し、何の活動に興味があるか等を気楽に話し合い、自然な流れのなかで、種々の活動分野ごとに会員のグループ化が出来てくれば、活気のある活動が生まれるのではないのでしょうか。

私事になりますが、私は60歳になった今でも、未知の要素があったり、残っていたりする山や地域を対象にした登山を目指しております。勿論、その対象の山と自分の体力や経験を照らし合わせて、最終的にどのような登り方で行うかを決めますが、計画のプロセス中が実に楽しく、幸せを感じます。今、ネパール・チベット国境峠のナンパラ近くにある、7,000mをちょっと越えていると思われる無名峰に、初登頂を狙って、夏休みに出かけたいと画策中です。一緒に行ってみたいと思われる方は、ご一報下さい。楽しい山登りをしましょう。

(藤井 正善)

## 平山善吉 前会長名誉会員に

日本山岳会前会長・千葉支部顧問の平山善吉氏が、名誉会員に推挙されました。同氏は、50余年に亘り日本山岳会の発展に貢献され、2003年5月には日本山岳会会長に就任、爾後2期4年にわたり卓越したリーダーシップを発揮されました。創立100周年にあたり、中央分水嶺踏査、『日本山岳会百年史』、『新日本山岳誌』

の発刊、記念式典の挙行等多岐にわたる記念事業を成し遂げられたことは記憶に新しいところです。昨年12月の年次晩餐会の席上、「一昨年は100周年記念事業を無事に実行することができた。みなさんのご協力に改めて感謝したい」と挨拶、出席会員から万雷の拍手で祝意が表されました。

(篠崎 仁)

## 「自然保護全国集会(西湖)」に参加して

昨年 11 月 17 日～18 日に富士五湖の西湖で開催された自然保護全国集会に全国で一番新しい支部の自然保護委員として初参加しました。新たに学ぶ事が多々あり大変有意義な会でした。大変盛りだくさんな内容でしたので2日間の主なプログラムを以下に記しておきます。



11月17日(土)

- 各支部からの報告

(高山植物保護活動、山岳地域へのシカの進出とその影響、権現の森林づくり、大台ヶ原の入山規制と利用調整地区の設置、山岳レンジャー等々)

- 山の環境アンケートの結果報告
- 組曲「三つの地球の歌」(本邦初演)
- 討議 ー「日本山岳会会員として考える山の環境とマナー」

- 座談会 ー「富士山と私」(松方峰雄、小佐野正史、渡邊玉枝、近藤信行各氏)

11月18日(日)

フィールドスタディ (十二ヶ岳、竜ヶ岳、三つ峠を選択して登山。私は十二ヶ岳に登りました。素晴らしい富士山を見ることができました)

今回の全国集会では、特に私が興味を引いたのは高山植物保護活動の一環としてのトイレとストックの問題、そしてシカによるとされる高山植物への影響についてでした。これらの問題は一部の問題ではなく、全国的な問題であり、一人ひとりの登山者の問題でもあると思いました。全国大会で得た情報を支部会員の皆様になるべく多く伝えなければ、と責任を感じております。今年度は東京で全国大会が開催されますので、興味のある方は是非参加されてはいかがでしょうか。

(豊倉 さと子)

## 第1回3支部(栃木・茨城・千葉)懇談会に参加して

今年の2月2日～3日日光湯元温泉にて第1回目の3支部合同懇談会が開催されました。

栃木支部から 20 名、茨城支部 4 名、千葉支部 6 名、JAC 会長、副会長、常務理事 3 名合計 33 名の出席で盛大に行われました。

最初に開催地の栃木支部長挨拶、次に宮下日本山岳会会長の挨拶があり、続いて栃木支部沖允人氏による記念講演「ラダック・パンゴン山脈」がありました。大変貴重な写真と

お話でした。その後各支部活動について支部長から挨拶、報告があり、千葉支部からは篠崎支部長が活動報告を行いました。また、茨城支部の浅野事務局長から富士山測候所の活用と今後の展開についての話があり、その件についての意見交換が行われました。

懇親会では各支部の会員と多いに話が盛り上りました。



二日目は4つの活動をから選択して千葉支部の参加者はクロスカントリーと、スノーハイキングに参加しました。私はクロスカントリーに参加しました。篠崎支部長の指導のもと、初めてのクロカンに挑戦しました。光徳牧場まで戦場ヶ原の真っ白な草原を本当に歩くスキーと言われていた通りにイチニイチニと声を掛けながら真直ぐな林の中を進みました。途中雪に足を取られ何度も転んでしまいましたが(おかげで立ち上がり

は上手になりました、苦笑)大変楽しいひと時を過ごすことができました。



今回は千葉支部での三支部懇談会開催の希望が出されていました。美味しい海の幸の魚介類を食べたいと言う話が多く聞かれました。

(小沢けい子)

## 千葉支部主催新年山行 「御殿山・富山・伊予ヶ岳」

期 日:2008年1月19日(土)~20日(日)

場 所:御殿山(363.9m)、富山(349.5m)、伊予ヶ岳(336.6m)

参加者

赤井一隆、遠藤将一、諏訪吉春、佐藤明夫、坂上光恵、澤田周平、篠崎 仁、高橋正彦、豊倉さと子、三木雄三、松澤君子、本木總子、柳下忠義、山口文嗣、吉永英明、吉村彰彦、小疇 尚、後藤三男、浜村 信、遠藤宗男、小沢けい子、行方正幸

千葉支部主催の第2回山行は新年山行と懇親会を兼ねて、房総の民宿に一泊して開催された。

19日午前10時JR内房線の岩井駅から市営バスにて伊予ヶ岳登山口の山田中で下車、平久里川渡って暫く車道を辿って行く。やが

て山道となり約1時間で、マテバシイとスタジイの大木のある御殿山の頂上に到着した。頂上からは明日登る予定の伊予ヶ岳、富山、第1回山行で登った鋸山や、東京湾の向こうに三浦半島から太平洋まで望まれる。昼食後この特徴ある山頂が良く眺められるポイントがあるとい

う地元をよく知っている三木さんの案内で少し先まで足を延ばす。残念ながら盛りは過ぎてしまっている樫のトンネルの急な斜面を下って行き、鞍部から登り返すと鷹取山になる。更に下って行くと両側が削られた痩せた稜線となり階段と柵が付けられている。ここから北に乳首のような樹冠が特徴的な御殿山の頂上が眺められる。更に御殿山の右後に千葉県最高峰の愛宕山、その後には房総の分水嶺ともいべき清澄山から元清澄山へかけての稜線が、三百数十mの標高とは思えない程の山深さで望まれる。この先稜線は宝篋塔山から大日山へと続くが、残念ながら今回は元来た道を引き返し、再び山田中のバス停から岩井駅へと戻った。



今宵の宿は岩井海岸の民宿で、一人にひとつずつの伊勢エビ、アワビを始め海の幸が盛りだくさんの美味しい御馳走で、参加者全員の懇親を深めることができた。急用で山行参加は断念された幹事の本木さんも懇親会には駆けつけてくれ、得意のフラダンスを披露していただき宴を盛り上げてくれた。

翌朝も前日と同じように風は強く、冷たかったが天気は良く、宿からスイセンの花盛りの県道を歩き富山登山口へと向かう。途中南総里見八犬伝の伏姫と八房が籠ったという伏姫籠穴を見物。林道から山道に入り急な階段を暫く登ると富山の南峰と北峰の間に出る。左へひと登りで吉井からの林道が登ってくる休憩所に

着く。ここで当日参加の後藤さんと落ち合う。さらにひと登りで富山北峰に着く。展望台があり、前日より視界が良く、三浦半島、城ヶ崎から伊豆大島、その左にちょこんと新島も見える。ここで小疇さんとも落ち合うことができた。



先程の休憩所から林道を吉井の集落に下り、みかん畑の中の道を伊予ヶ岳に向う。途中集落の中で道が分かり難いが、昨日後から来て今日のコースを一人で歩いた後藤さんの道案内で、迷うこともなく伊予ヶ岳の登山口へ導かれる。再びの急登で平群天神社からの登山道に合流、ベンチのある展望台に荷物をテガし、伊予ヶ岳へ最後の登りにかかる。滑りやすい岩混じりの急斜面で、ロープと鎖を頼りに登っていくが、慣れない人が多いと渋滞しそうな登山道である。さすが千葉支部の会員は全員難無く登り切り南峰のピークに出て、360度の展望を満喫した。更に北峰から南峰のピラミダルな展望を楽しみ、慎重に下山を開始した。富山分岐からは道も良く、梅林の中をのんびり下って行けば、あっという間に平群天神社に到着、ここからバスで岩井駅に戻り解散となった。

(山口文嗣)

## 花嫁街道「烏場山」ハイキングのお誘い

かつて、山間地の村の人たちがあこがれた和田浦の海。明るい太陽と塩を求めて越えた山がその後「花嫁街道」と呼ばれるようになりました。

冬でも枯れることのない照葉樹林のマテバシイの純林をみながら、茅場として利用された烏場山をのんびりと歩いてみませんか。山から見る「鴨川松島」や波光ひらめく太平洋、そして黒滝など、見所もたくさんあり、房総ならではの人気のコースです。（三木雄三）

日 時： 2008年4月5日

集 合： 千葉駅7時09分発の外房線勝浦行きに乗ってください。

目的地は和田浦駅

帰りは和田浦駅17時38分発内房線千葉行き

千葉駅到着は20時08分

または、和田浦駅16時36分で千葉駅18時54分

費用は千葉、和田浦が1620円

- 和田浦は捕鯨基地。地元ではクジラ料理、土産が楽しめます。早く下山できれば、帰りの時間までクジラで反省会もできます。

## 第3回山行案内「軍荼利山」(73m)

九十九里平野の素朴な自然を訪ねるハイク

玉前神社から県指定天然記念物の自然林に覆われた軍荼利山まで歩きます。

歩程： 3 時間、2.5 万回上総一ノ宮

期日： 2008 年 6 月 1 日(日)日帰り

集合： JR外房線上総一ノ宮駅 10 時 10 分

(千葉発外房線 9 時 10 分発、安房鴨川行)

持ち物：昼食、雨具。運動靴 or 軽登山靴

申込： 時間の変更があるかも知れませんので、必ず下記担当者に申し込んでください。

## 内浦山県民の森・清澄寺の自然を観察のお知らせ

千葉支部ならではの、いち早く春風を受けながら、房総の青い海原を一望し、日蓮上人ゆかりの名刹を訪れたりしながら、千葉の自然を観察する機会を計画いたしました。

今回は2日間にわたり森林インストラクターの望月力智氏にご案内いただくと共に、房総半島の自然についてもいろいろお話を伺う予定です。

この機会に我が故郷千葉の自然について学習し、千葉の自然の特徴を知ったり、見直したり、新たな発見をしたいと思います。是非皆様お誘いの上ご参加下さいます様お待ちしております。  
(担当:川越、篠崎、豊倉)

日 時: 2008年3月15日(土)～16日(日)

集 合: 外房線「行川アイランド駅」前 13:00

日 程: 15日(土)行川アイランド駅(歩)～おせんころがし(房総の主稜が清澄山系から  
東に向かい太平洋へと落ちる断崖)(歩)～誕生寺(歩)～安房小湊駅  
(マイクロバス)～内浦山県民の森(自由散策)(森の宿せせらぎ泊)

※講義「房総半島の自然と植生」望月力智氏(森林インストラクター)

16日(日)内浦山県民の森(歩)(関東ふれあいの道)～清澄寺(境内の散策)(自由  
解散)～安房天津駅

宿泊先: 内浦山県民の森内「森の宿せせらぎ」(04-7095-2821)

費 用: 宿泊費等 9,000円

(交通費等は各自交通手段が異なりますのでこの中には含まれません)

募 集: 30名(先着順)

● 編集後記

三支部合同の懇談会に参加して、主催の栃木支部の皆様には大変よくして頂きました。来年の懇談会は千葉支部が幹事です。皆様の参加で盛り上げて参りましょう！美味しい料理の宿の情報や企画がございましたら、教えて下さい。(結城)